

# あなたのお店を拝見 後継者が定まり、顧客の信頼を高め 経営を安定軌道にのせる

## 横山農機有限公司

その284

平成5年の不作以来、厳しい経営状況が続いたが、後継者が定まり顧客の信頼が増した横山農機有限公司(栃木県那須烏山市初音3-15 代表取締役 横山 昭氏)を訪ねた。



社長 横山昭氏

那須烏山市は宇都宮駅からJR烏山線で約1時間、奈良時代から続く烏山和紙や、毎年7月下旬に行われる国の重要無形民俗文化財「愛称ACCUM」が走り、地元では初運行を祝し特別に春の山あげ祭が開催された。農業は稲作、養豚、乳用牛などの畜産が主だが、産出額は減少傾向にあります。



横山農機有限公司

横山農機はJR烏山駅を降り、徒歩約6分の場所にあり、創業は昭和元年としていますが、戦争などにより確かな記録はありませんが、大正時代に商売を始めたと伝え聞いています。現社長の横山昭氏が4代目。昭氏が社長になったのが36歳の時、平成5年の不作の年で、それまで順調にきていたが、社長になった翌年からしばらく新車が売れず、中古も低価格機しか売れな



横山農機のアイドル

流れが変わったのは不作の年から約10年、大学を卒業した御子息の勇樹氏がメーカーの整備工場で1年学んだ後、横山農機に入社し働き始めてからだと言われました。勇樹氏は高校、大学と野球に打ち込んできました。昭氏も自分の



やりたいことを思いきりやらせてあげたいとの強い思いから、野球をする息子を全力で応援し続けました。その思いが勇樹氏に伝わったのか、昭氏は会社を継ぐとは一言も言わなかったそうです。が、卒業後は横山農機で仕事をすることを勇樹氏自身が決めたそうです。勇樹氏が跡を継ぐと決めた時は、社長の立場としては、会社も厳しい状況で給料も払えるかどうかという心配が先に立ち、素直に嬉しかったという思いにはな

## お客様のアイデアを形にしていく 信頼関係の再構築を図る

現在社員7名で、社長の昭氏が積極的に営業を、整備等は勇樹氏が中心になりベテラン社員が盛り立てながら行っています。整備工場は本社事務所から車で15分程行った県道222号線沿い

にありますが。朝8時前に部品を担当者に渡し、夕方5時頃には終わるように計画的かつ集中してできる環境づくりを勇樹氏が手配しているそうです。また今年で入社53年目、社長の昭氏が5歳の時から働いているベテラン社員が横山農機をしっかりと支えていることも、大きな力となっています。

近年は農地集約の影響もあり営業エリアが必然的に狭がり半径30km程度までになつてきました。これに伴い新

規顧客も増えていますが、当社から飛び込み営業することはなく、知り合いからの紹介など先方から話があるのが、商談は比較的スムーズに進むことが多いそうです。

新規のお客様は比較的大規模農家が多いのですが、地域全体の特徴としては大型機が少なく、中型、小型や中古の売上が高く、固定客が多いため、数をこなすことで大きな落ち込みを起すことなくやってきました。



整備工場

く、丁寧な仕事をしていく方が多いことをこの点からも証明しているといえるでしょう。横山農機のお客様は米農家が多く、トラクタも30馬力前後が主力になってきているので、数をこなしていくしかないというところでした。最近では農家の減少等から展示会の回数を減らしたり、展示会をしない販売店も増えていますが、横山農機では2月下旬と8月上旬に実施し積極的に展開しています。今後は展示会も、いろいろ工夫して新しいアイデアを出しながらやっていきたいと話されています。



頼りになるベテラン社員

しかし、それだけ細かい部分にまでこだわってお客様を相手にした仕事だけに、長年続けてこられたのも、横山農機がしっかりと仕事をやってきた証でもあります。ちなみに、横山農機のお客様にはこの数年おのりによる事故はほとんどありません。組合を大事に、その組合にも役立つよう利用していきたい、と話されていました。

組合については現在、栃木商協の専務理事となり、組合の利益など今まで意識してこなかった細かいことまで考えるようになってきた。立場が変わると考えも変わってくるもの。組合を大事に、その組合にも役立つよう利用していきたい、と話されていました。

後継者に恵まれ経営が好循環になってきたことから、今後の展開も意欲的に取り組む姿勢を強く持った横山農機の今後の活躍に期待したいと思えます。

今後の展開として、横山社長は、「将来に向けて何かしないといけない」という強い危機感を持っています。今後は基本は整備を中心として手堅くやっていくことが何より大事なことだと思いが、これは農業、肥料も扱っているからです。また「今の農業の方向性が見えない中、先が見えないなら、わかる範囲で動かしかなければならない」と話されています。

「今の農業の方向性が見えない中、先が見えないなら、わかる範囲で動かしかなければならない」と話されています。

「今の農業の方向性が見えない中、先が見えないなら、わかる範囲で動かしかなければならない」と話されています。